

しおかぜ通信

編集・発行
神戸市立医療センター中央市民病院
広報委員会
TEL 078-302-4321

ホームページ <http://chuo.kcho.jp>

<がん相談支援センター>がリニューアルオープンしました!

～平成 28 年 10 月より運営開始～

現代社会において、2人に1人は一生のうち何らかのがんにかかると言われており、今やがんはすべての人にとって身近な病気となっております。

こうした状況の中、10月より、国指定の地域がん診療連携拠点病院である神戸市立医療センター中央市民病院では、<がん相談支援センター>がリニューアルオープンいたしました。

スペースも広くなりセンター内に相談室があり、がん相談員が常駐しております。がんに関するパンフレット類を多数設置したり、図書コーナーやウイッグ展示など、がんに関する情報提供を行います。

また9月より当院に受診中のがん患者・家族を対象に、がん相談員がお話を聞いた後、月1回開催される社会保険労務士による<がん患者の仕事と暮らしの相談会>も好評開催しております。

その他にも、がん患者の癒しと交流の場として<がんサロン>、市民への正しいがん知識の情報提供を行う<がん市民フォーラムinKOBÉ>など、色々な取り組みを行っております。

これからも開かれた病院を目指し、市民の皆さまへがん関連の情報発信に力を注いでまいります。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。



◆対象者

どなたでもご利用いただけます

→社会保険労務士による相談会は、当院受診中のがん患者・家族のみ

◆利用時間

平日の午前9時～午後5時

◆問い合わせ先

神戸市立医療センター中央市民病院
がん相談支援センター

TEL: 078-302-4321 (代表)

受付時間: 9:00～17:00



臍帯血移植について

血液内科部長 石川 隆之



臍帯血移植とは

急性白血病などの血液がんの治療は主に抗がん剤が用いられます。しかし、抗がん剤治療のみで治癒に至ることが困難な場合があります。そのような際に同種造血幹細胞移植が行われます。造血幹細胞は通常は骨髄にいますので、20年ほど前までは骨髄移植しかありませんでした。一方、以前より胎児の血液中には骨髄と同程度の造血幹細胞がいることが知られていました。お産の際にへその緒（臍帯）や胎盤に残った赤ちゃんの血液を回収し、凍結保存しておけば移植に用いることも可能です。1995年ころから公的臍帯血バンクの整備が進み、2005年以降急速に臍帯血を用いた同種移植（臍帯血移植）の施行件数が増加しています。当院でも現在では同種移植の半数程度が臍帯血移植で行われています。

臍帯血移植の良いところ

自分以外の造血幹細胞を用いて移植する際には、拒絶反応や移植片対宿主反応が生じます。人間では自分と他人を見分けるのにHLAという分子を用いています。HLAはほとんどすべての細胞に旗のように存在し、わずかでも違う旗があれば血液細胞の一種であるリンパ球がその細胞ごとすみやかに殺してしまいます。したがって、同種移植のためにはHLAが同じドナーさんから造血幹細胞を頂かないといけませんが、HLAは数百万種以上の種類があります。自分と同じHLAを持つ人を探すことは、両親を共有する同胞以外では30万人の登録者のいる骨髄バンクをもってしても容易ではありません。臍帯血のドナーである胎児は母親以外だれとも接触していません。そのためでしょうか、臍帯血中のリンパ球は多少のHLAの違いには反応しません。そのため、臍帯血移植はHLAが多少違っていても施行可能です。現在約3万人分の臍帯血が保管されていますが、HLAの点だけからいえばそれだけあればすべての人に移植可能な臍帯血が見つかります。また、成人のドナーの場合と異なり、造血幹細胞提供前に必要な健康診断などを必要としません。急ぐ場合であれば移植を決めた10日後に移植を行うことさえ可能です。すなわち、臍帯血移植は患者さんにとって最適な時期に行うことができます。これは他の造血幹細胞移植にない利点です。

臍帯血移植の問題点

臍帯血は100ml程度しか採取できませんので、その中に含まれる造血幹細胞も多くはありません。臍帯血移植の成功のためには患者体重当たり一定の細胞数があることが必要です。実際、50kgの患者さんに移植可能な臍帯血は多数見つかりますが、80kgの患者さんには多くの場合見つかりません。男性患者などで、移植可能なHLAを持つ臍帯血はあっても、細胞数が足りずに臍帯血移植を断念することはよくあります。移植に必要な細胞数があっても、移植した臍帯血が生着しないことも1割強に認めます。生着しなければ患者さんは重大な危機に直面します。その際当科では臍帯血移植をやり直します。幸運なことに2度続けて生着しなかった患者さんは今までのところはいません。とはいえ短期間に2回の移植を行うことは患者さんにとって決して楽なことではありません。そのほか、生着後早期にウイルス性脳炎を起こす頻度はほかの造血幹細胞移植に比べて高いといわれています。

まとめ

同種造血幹細胞移植は、HLA一致同胞もしくはHLA一致骨髄バンクドナーをドナーとすることで最も安全に施行できます。しかし、ドナーの見つからない方や速やかな移植が必要な方の場合、臍帯血移植は有力な選択肢となります。臍帯血移植には多くの課題が残されており、当科でも安全性と有効性の向上のため今後も検討と努力を続けていきます。

腹腔鏡肝切除適応拡大について

外科部長 貝原 聡



外科とは、手術によって傷や病気を治す方法です。しかし体にメスを入れる治療は危険や苦痛を伴い回復するまでにかなりの時間が必要で、いかにしてこの期間を短くするかが外科手術の大きな課題でした。この点に関して「革命」ともいえる手術法が、内視鏡を使った「腹腔鏡手術」です。

従来の手術は開腹手術と呼ばれ、腹部を大きく切り開いて手術を行う方法です。一方、腹腔鏡手術は、腹部に数箇所小さな穴を開けて、腹腔鏡（腹部を見る内視鏡）で中を見ながら特殊な道具で手術を行うという画期的な手術法です。日本での腹腔鏡手術は1990年より始まり、皆さんの周りにもその手術を受けられた方も少なからずおられると思います。当初は胆嚢をとる手術（胆嚢摘出術）から始められ、現在では、急性虫垂炎（いわゆる「盲腸」）や鼠径ヘルニア（いわゆる「脱腸」）などのよくある良性疾患のみならず、胃がんや大腸がんの手術の多くが腹腔鏡で行われています。また消化器の病気のみならず、肺や泌尿器（特に前立腺）の病気にも広くこの手術は普及しています。

一方で、肝臓や膵臓の手術は他の手術に比べて技術的に難しく、腹腔鏡の手術はなかなか応用できませんでした。しかし近年、腹腔鏡手術に用いる器具の進歩や手術自体に様々な工夫がなされ、徐々に肝臓や膵臓の手術にも腹腔鏡手術が行われるようになってきました。そして2010年からは小さな肝切除に限り腹腔鏡手術に健康保険が適応となり、今年の4月からはほぼすべての腹腔鏡肝切除手術を健康保険で行えるように適応が拡大されました。

しかし皆さんも新聞報道などでご存知かと思いますが、2014年にある病院で腹腔鏡による肝臓切除手術で亡くなられた方が多数いたという事実が明らかになり、以来腹腔鏡手術の安全性について様々な議論がなされてきました。そして今回の健康保険適応が拡大されるにあたってこの点が最も重要視されています。具体的には、①腹腔鏡肝切除手術を行える病院は肝切除の高度な技術を有する病院に限定する、②腹腔鏡肝切除手術を行う場合はすべての症例を事前登録制とし安全性を検証する、とされました。そして、これらの基準が満たされていることが厚生局により承認されて初めて、腹腔鏡肝切除手術を行える病院として認定される仕組みとなっています。当院もいち早くこの申請を行い、本年の6月からはほぼ全ての腹腔鏡肝切除手術を行える「認定施設」として認可をいただきました。

腹腔鏡手術は低侵襲、つまり体に優しい手術といわれています。当院でも、今までに約100人の患者さんに腹腔鏡肝切除手術を行ってきました。今後も手術の技術をさらに磨き、多くの方に安全かつ優しい治療が提供できればと考えています。



ご寄付のお願い

神戸市立医療センター中央市民病院 院長 坂田 隆造

神戸市立医療センター中央市民病院は、「神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。」を基本理念とし、救急医療・高度医療を中心に、日々、地域の皆様の健康維持に努力しております。医学の世界は日進月歩で進行しており、新しい医療に対応するためには、常に最新の機器整備をおこなう必要があります。そのためには多額の資金が必要となり、財源の確保に日々苦慮しているところです。



当院は、これからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。

企業、個人の皆様に寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思っておりますので、金額の多寡にかかわらず御支援を賜りますようお願い申し上げます。

いただいたご寄付の用途

いただいたご寄付の用途としては、病院環境の整備、患者サービスの向上、最新医療機器の整備、臨床研究などがあり、できるだけご寄付された方のご意見を反映して使用させていただきます。



PET-CT (平成 24 年 7 月より稼働中)

ご寄付いただける方は…

下記お問い合わせ先へご連絡ください。申し込み方法についてご連絡させていただきます。

税制上の優遇措置

当院にご寄付いただいた場合は、税制上の優遇措置を受けることができます。

個人の場合…

所得税法の規定により、一定額の寄付金控除が認められます（神戸市民以外の方も対象）
神戸市民の方は、神戸市個人市民税についても、一定額の寄付金控除が認められます。

法人の場合…

法人税法の規定により、寄付金全額の損金算入が認められます。

お問い合わせ

神戸市立医療センター中央市民病院 事務局庶務課経理調達係

〒650-0047 神戸市中央区港島南町 2 丁目 1 番地の 1

連絡先：078-302-4321（代表） E-mail：kifu@kcho.jp



ご寄付窓口

ご寄付をいただいた皆様（平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月）

当機構にご寄付を賜りました方々を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。（順不同掲載）
平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月にご寄附を賜りました方々は以下のとおりです。いただいたご寄付につきましては、病院環境の整備、医療機器の整備、臨床研究など、できるだけご寄付いただいた方のご意見に沿って活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。

明和海運株式会社 様 葉 俊 仁 様 中谷 庄 一 様 松山 康 二 様
南原 律子 様 阪本 照子 様 安積 鈴子 様

お問合せ先：神戸市立医療センター中央市民病院 事務局庶務課経理調達係 連絡先：078-302-4321（代表）